

はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。
2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2009年3月1日発行

今、「はじめての台所」グループ2がピザを焼いています。
先程まで粉などを入れたビニル袋をこねこね、そして机にバンバン叩きつけていたと思ったら、成形してトッピングし...。お代がいただけそうな出来栄です。他グループの皆さんも、大変熱心に受講されています。「前回の講座後、自宅で2回作った」、「帰ったら材料が用意されていると思う。前回はそうだったから。」とお互い話され、ご家族の方に期待されている様子が伝わってきました。次回は中華、そして最終回は大切な人を招いてのお食事会です。皆さんの上達振り、手際の良さを存分に披露しましょう！



日本は男女平等度 130カ国中98位 先進国中最下位

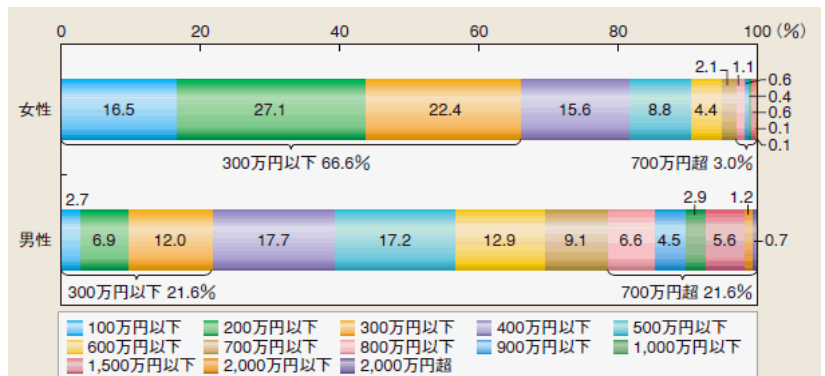
世界経済フォーラムが、昨年11月12日、各国における男女差を測る「ジェンダー・ギャップ指数 2008年版」を発表しました。この指数は、男女格差に焦点を当てて、経済(労働人口、賃金、管理職、専門職などの男女比)、教育(識字率と初等、中等・高等教育の就学率の男女比)、健康(平均寿命と出生時の男女比)、政治(議会議員、閣僚などの人数の男女比)の4つの分野を対象としています。格差が少ない国は、1位ノルウェー、2位フィンランド、3位スウェーデンと北欧が上位を占めています。これらの国は、まさにワーク・ライフ・バランス実践国です。また、アジアでは、フィリピンが6位に入りました。

【政治・経済分野で格差が大きい日本】

日本は、健康面で38位と比較的上位ながら、国会議員・管理職等で女性が少なく、また、昇進・年収などの格差が大きいことが、全体の評価を下げる要因となっています。

女性は、正社員より賃金水準が低いパートタイム勤務が多いなど、雇用形態が男女間で違いがあること、収入を夫の扶養家族の範囲内に調整することなどが、年収の格差の要因と考えられます。

(年間給与所得の構成割合)



(備考) 国税庁「民間給与実態統計調査」(平成18年度)より作成。

出典：20年度男女共同参画白書

【男女がともに力を発揮できる社会をめざして！】

世界経済フォーラムは、この調査の男女格差について、「ジェンダーギャップ指数と(経済的な)競争力は明らかに関連している。人的資源の半数(女性)を十分活用していない国は、それだけ競争力を損なっていることになる」と言っています。逆に考えると、日本はまだ競争力を高める余地がある国ということです。男女雇用機会均等法から20年経ちました。性差に関係なく、活躍の場が与えられ、男女がともに力を発揮できる社会になれるよう、早急な格差是正が求められます。

「はじめての台所」で“ちょこっとさんかく教室”を開催しました！

男性の家事への参画をはかり、生活面での自立を目指して企画した「はじめての台所」。回を重ねるごとに料理を作る楽しさを知っていただき、「料理は女性のするもの。料理は奥さんがするもの」という概念は、すっかりなくなった受講生の皆さんに、講座が終わった後、“ちょこっとさんかく教室”を開催しました。



(餃子を包む受講生の皆さん)

2月28日の第3グループの実習は、中華で、餃子・チャーハン、卵スープを作りました。そして、実習後、男女共同参画アドバイザーの上田茂雄さんから、お話していただきました。

【ちょこっとさんかく 男女共同参画とは????】

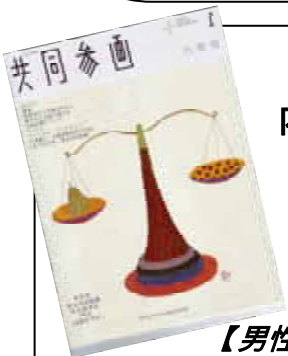
上田さんは、2年前にアドバイザーの皆さんが作成されたパンフレットを使って、**男女共同参画**とは、男女が性別にかかわらず、個性と能力を發揮できる機会が同じように与えられ、自分の意思でさまざまな分野の活動に参画し、ともに利益を受け、責任を持つことをいう。身近なところでは、家事を分担して助け合うことや、相手を思いやり、常に感謝の気持ちを持つことが大切であるとのお話されました。



(パンフレット説明中の上田さん)

【「今日は私が料理をつくるよ!」と尝试してみよう!】

また、受講生の皆さんが楽しく料理を作り、その料理を講評しあって食べている様子に触れられ、ご自宅に帰られたら、「今日は私が作るよ」とか「一緒に作るよ」と家族の方々に声かけをされてはどうかと提案されていました。



内閣府は、毎月『共同参画』という本を出しています！

内閣府では、男女共同参画の重要テーマや様々な取組についてお伝えする雑誌『共同参画』を発行しています。はもりあ四日市に置いてありますので、ぜひ手にとってご覧ください。2月号より、少し記事を紹介します。

【男性の家庭参画 - 男性を取り巻く現状と家庭参画への希望】

男性労働者における1週間あたりの就業時間が60時間以上の方の割合は、平成6年度からの10年間で、各年代において増加していて、家事や育児を含めたプライベートな時間がとりにくい状況になっています。

厚生労働省の調査によると、育児休業制度を「利用したいと思う」男性の割合は31.8%、育児のための短時間勤務制度を「利用したい」男性の割合は、34.6%となつ

ています。しかし、現実には、男性の育児休業取得率は1.56%にとどまっているなど、制度利用率は大変低く、制度を利用したいと思っても、実際には利用していない(できない)男性が多くいらっしゃいます。このように、多くの男性自身が育児などを通じた家庭参画を希望していても、現実には、男性は長時間労働で、仕事中心の生活となる場合が多くなっています。

	全体	子どもあり	男性		女性	
			全体	子どもあり	全体	子どもあり
調査数	1,553	1,104	752	589	801	515
育児休業制度	50.9	50.0	31.8	33.1	68.9	69.3
育児のための短時間勤務制度	48.9	48.8	34.6	35.1	62.3	64.5

(備考) 1. 厚生労働省「今後の仕事と家庭の高支援助に関する調査結果」(平成20年)。
2. 育児休業制度については「利用したいと思う」、育児のための短時間勤務制度については、「現在利用している」・「利用したいと思う」を合わせた割合。

出展:共同参画

【ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて・・・3月8日 パク・ジョアン・スックチャ氏講演会】

はもりあ四日市では、仕事と生活のバランス(ワーク・ライフ・バランス)を実現するため、誰もが満足できる働き方、生活がおくれるよう、さまざまな立場から考える機会を持っていただきたいと思います。3月8日に13時30分から総合会館で講演会を実施します。パク・ジョアン・スックチャさんという女性のワーク・ライフ・コンサルタントの方から、わかりやすくお話いただきます。ぜひ皆さん、お越しください。

内閣府 共同参画フォーラム 2009

出席
しました

2月9日、東京で、内閣府主催の「共同参画フォーラム2009」が行われ、経済評論家の勝間和代さんによる**福利厚生ではなく、競争力になるワーク・ライフ・バランスの進め方**についての講演と、「育休パパの子育て体験記」というテーマの座談会がありました。

勝間さんの講演は、経済という切り口から、少子化と男女共同参画の課題に迫る内容でした。日本の出生率低下による人口減は、先進国の中でもきわめて深刻だが、その一因は大学の学費をはじめ子育てにお金がかかりすぎる現状にある。そこで、夫婦共稼ぎという選択になるが、日本は働きながら子どもを育てていく社会基盤が不十分。内閣府が2000年に行った調査では、**女性の社会進出が進んでいる国ほど出生率が上がっている**。一方、日本は長時間労働に歯止めがかからず、男性の22%が過労。労働生産性も主要先進7ヶ国中最下位。働く時間が長いからお金を使う時間も少なく、内需の落ち込みにつながる。結婚後の出産・育児時間がないために、さらに少子化が進むという悪循環に陥っている。そこで、もっと国家政策として子育てに予算を使い、職場内においては、育児中の女性社員など一部の従業員だけの福利厚生としてワーク・ライフ・バランスを捉えるのではなく、私生活が充実することで生産性も上がるという、競争力を上げる取り組みにすることが重要であると力説されました。

後半は、育児休暇をとったパパ2人とママ1人の座談会。富士通総研の研究者、テンプスタッフの人事部担当者、アエラの副編集長と非常に忙しいポストにいる方々の育休体験。「休暇をとる前、自分は家事育児をやっていると自認していたが、あくまで手伝っているというレベルだったことがわかった。育休をとってからは、子どもが夜中に泣いてもすぐ目が覚めるようになった」と発言された育休パパのお話が印象的でした。



今月のおすすめ本

男性カレッジ「はじめての台所」にちなみ、料理本を紹介します。

「親父メシ」

妻に離婚を言い出され、炊事・洗濯・掃除と不慣れな家事をすべてやらなければならなくなった男の危機を「料理」が救います。最初に登場する空豆のゆで方は、「塩の量に神経質になる必要はない。塩加減が足りなければ後からふるう」と結構おおらかに書かれています。普通の料理本とは違い、取っ付きやすい本です。

「おすぎの大料理」

すべてがおすぎさんの手作りメニュー。撮影時期が春だったこの本は、今の季節にピッタリ。簡単おいしい出番の多いご飯のおかず、仲間をもてなす大皿料理とテーマに別れて紹介されています。「ぶっかけ山菜そばサラダ」等、一度つくってみませんか？



図書の貸出期間は1ヶ月間です。
1人10冊まで借りられます。

今月のキーワード

クォータ制

男女共同参画社会の実現に向けて、政策決定の場における男女比率の偏りをなくすために行う積極的改善措置策の一つがクォータ制です。国会をはじめとする議員や、国・地方自治体の審議会等の人数を制度として「割り当てる」ことを言います。

この制度の発祥地はノルウェーで、男女平等法において、「公的機関が4名以上の構成員を置く委員会等を任命または選任するときは、それぞれの性が構成員の40%以上選出でなければならない。4人以下の構成員を置く委員会においては、両性が選出されなければならない」

クォータ制は、現在、多くの国で採用されており、お隣の韓国でも、2004年の国会議員比例代表選挙に、50%クォータ制が導入され、その結果、国会議員女性委員の比率は、日本を上回りました。

日本も、政策決定の場に女性がもっと参画できるようになり、男女がともに活躍する社会になることが望まれます。



登録グループイベント情報

- 3月15日(日) **だめママクラブ「言いたくても言えない事」**
「だめママクラブ」は、自分の気持ちを話す場所です。予約はいりません。お子様連れでどうぞ。
時 10:00～12:00 費 300円 所 はもりあ四日市 会議室
問 ままたまご 水谷(080-5166-9864)
- 3月15日(日) **ハンドメイドマーケット「ママの手しごと 1」**
家事に、育児に、仕事に忙しい毎日の小さな小さな時間をつなぎ合わせて作り上げた作品の数々。
妻でもなく、ママでもなく、ハンドメイドを通じて「私」を表現します。ぜひ来てください。
時 10:00～15:00 所 おとうちゃんの記念館(まきの木台)
問 みつくすじゅうす 田中(090-4216-8133)
- 3月15日(日) **「シーバルクであそぼう!!」**
農業用ビニールシートを張り合わせ空気を送り込んでつくる大型オブジェ「シーバルク」。
青少年と地域の大人で創りました。あそびにきてね!
時 10:00～18:00 費 100円 所 四日市市民公園(アピタ四日市店前広場)
問 NPO 法人 体験広場 こどもスペース四日市 (TEL&FAX321-0883)

登録グループ紹介

はもりあ四日市に登録されているグループさんを紹介していきます。

今回は、**ままたまご**さんです。

ままたまご

代表者 水谷 雅子

連絡先 080-5166-9864

育児と家事を両手に抱えて頑張っているおかあさんに、家族を大切に思うのと同じくらい自分も大切にしたい…。母親自身が人生を自分らしく生き生き過ごす事が、家族や社会の幸せに繋がると信じて平成14年から活動しています。現在は、子育て中の母親を対象に、自分の気持ちをみつめ語り合う「だめママクラブ」を月1回、はもりあ四日市で開催しています。子ども連れで気軽に来てみてください。

情報紙 はもりあについて

月1回発行している「はもりあ」。「ちょっと字が小さいのでは?」とのご意見を多くいただいています。なので、4月からプチリニューアルで、A4サイズに変更します。ちょっと字が大きくなる「はもりあ」は、各地区市民センター、楠総合支所、図書館など市の施設においてあり、自由にお持ちいただけます。これからもぜひ、ご覧ください。



四日市市男女共同参画センター (はもりあ四日市)

〒510-0093 四日市市本町 9-8 本町プラザ 3F

TEL.059-354-8331 FAX.059-354-8339

●開館時間 AM9:00～PM9:00

●休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml>